

事業概要シート

施策：交通安全の推進

《 》は、29年度の当初予算

事業名： 自転車安全利用促進事業	拡充	予算額	1,060 千円
			《 899 》
財源内訳		国庫支出金	千円
		県支出金	千円
		地方債	千円
		その他	千円
		一般財源	1,060 千円

【事業の目的・概要・対象】

- 1 目的：自転車の安全利用の促進、公共の場所における放置防止対策等を図り、自転車の交通事故防止とともに、安全で快適な市民生活を確保する。
- 2 概要：自転車交通安全教室、放置自転車巡回作業等
- 3 対象：市民

【拡充内容】

市、警察及び交通安全協会で実施している自転車安全運転講習会や街頭啓発活動に加え、自転車の利用頻度が高い中学生及び高校生を対象に、プロのスタントマンが自転車事故の再現を実演するスケアードストレート方式による自転車の安全利用講習会を実施する。

(概要)

市内の中学校又は高等学校において年1回実施 対象の学校及び実施時期については、警察及び安全協会と協議する。

(予算)

委託料 30万円

※「スケアードストレート」～ 恐怖を実感することで、それにつながる危険行為を未然に防ぐ教育手法

「大村市自転車の安全利用促進及び自転車等の放置防止に関する条例」に基づく取組

市

- ・ 広報啓発活動
- ・ 自転車安全利用講習会の開催
- ・ 放置自転車巡回、ストップマーク設置

学校

- ・ 自転車の安全利用に関する教育・指導
- ・ 施錠の徹底指導
- ・ 自転車安全利用講習会等への参加

連携 協働

関係機関・団体等

- ・ 広報啓発活動
- ・ 自転車安全利用講習会等の実施・協力
- ・ 自転車損害保険等への加入勧奨

利用者

- ・ 自転車の交通ルール等の遵守
- ・ 自転車安全利用講習会等への参加
- ・ 保険等への加入
- ・ 施錠及び管理の徹底

自転車事故 + 自転車盗難 + 放置自転車等

減

安全・安心なまちづくりの実現

【背景】

大村市は、自転車の利用者が県内で最も多く、それに伴い自転車に関連する交通事故の件数も県内で最多という状況である。中でも、中学、高校生の自転車事故が多くを占めていることから、通学等で自転車を利用している中学生、高校生を対象とした自転車交通安全講習会を実施し、自転車の交通ルールとマナーの遵守徹底の強化を図る必要がある。

担当課	総務部安全対策課	問合せ先	0957 - 53 - 4111 (内線 : 214)
-----	----------	------	-----------------------------

事業概要シート

【活動指標】

指標名		単位	H28 (実績)	H29 (目標)	H30 (目標)	H31 (目標)	H32 (目標)
①	安全講習会等啓発活動実施回数	目標値 回	4	4	4	4	4
②	放置自転車撤去台数	目標値 台	72	50	20	20	20

【成果指標】

指標名		単位	H28 (実績)	H29 (目標)	H30 (目標)	H31 (目標)	H32 (目標)
①	自転車事故発生件数	目標値 件	31	30	30	30	30
②	自転車盗難件数	目標値 件	65	50	50	50	50

【予算・決算】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	合計
事業費	1,380	922	779	899	1,060	1,060	6,100
国庫支出金							0
県支出金							0
地方債							0
その他							0
一般財源	1,380	922	779	899	1,060	1,060	6,100
人件費	756	1,058	727	847	847	847	5,082
職員	0.10人	0.15人	0.10人	0.10人	0.10人	0.10人	0.65人
時間外勤務	0h	0h	0h	60h	60h	60h	180h
嘱託員	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人
フルコスト	2,136	1,980	1,506	1,746	1,907	1,907	11,182

妥当性 (市の関与)	「大村市自転車の安全利用促進及び自転車等の放置防止に関する条例」に基づき、自転車関連の事件事故防止を図り、市民の安全で快適な生活環境の確保のため、市が主体となって事業を実施する必要がある。
有効性 (施策貢献度)	自転車の安全利用及び放置防止対策を講じることで、市民の安全で快適な生活環境を確保できる。
効率性 (コスト)	必要最小限のコストで計画しているため、削減の余地はない。

1次評価	担当者意見のとおり
2次評価	1次評価意見のとおり